

絵本の読み聞かせて世代間交流



「りぷりんと」のエリアをつなぐ・・・

りぷりんとネットワーク ニュースレター



寄稿 「りぷりんと」の活動に携わって

りぷりんと・すぎなみ 森洋子

定年退職後、「なにか子どもとかかわることがしたいな、できれば絵本の読み聞かせがしたいな。」と思っていたところに「りぷりんと」の募集を見つけ、早速申し込んだのが3年半前。

「りぷりんと」の活動は、なによりも「絵本」を通して子どもたちに向き合えること、大人も感動する絵本に出会えること、そして「りぷりんと」の仲間と語り合い、研修しあえることが素晴らしいことだと思います。EXから正式に「りぷりんと」として出発して1年4カ月、1, 2, 3期生43名が保育園、児童館、図書館11か所で読み聞かせ活動をしています。昨年からは杉並総合高校のボランティア講座「絵本のよみきかせ」も担当し、高校生との交流もしています。その他、「子育てメッセ」に参加し、児童館、保育園の交流イベントの企画運営をするなど、活動の範囲も広がってきています。例会ではなによりも会員みんなが自由に発言できるように「読み聞かせの交流」を大事にしています。どんな絵本を選べばいいのか、保育園などの施設との関わり方はどうすればいいのか、お母さん方の参加する会では、お母さん方との関わり方など話題はつきません。うまくいったことだけでなく、いいと思って選んだ絵本が、子どもには合わなかったことや、子どもが喜ぶ絵本だけでいいのかなど、この場が研修になっていると思います。

9月からはグループ発表を行いました。発表のために練習をし、グループのまとまりができ、他のグループの発表によって、たくさんのことを学ぶことができました。各イベントにもたくさんの方々が参加して下さいました。「りぷりんと」の活動が、地域にも少しずつ根付き、これからも子どもたちとかかわり、自分たちも元気に活動できたらいいなと思います。

目次

寄稿：森洋子……………	1面
講師コーナー：植田たい子…	2面
りぷりんと・すぎなみ…	3面
りぷりんと・かわさき…	3面
りぷりんと・中央区 …	4面
りぷりんと・長浜……………	4面

りぷりんフォ（おしらせ）

- * 3月29日 りぷりんと・ネットワーク理事会をゆうゆう荻窪東館にて開催しました。次回は、5月13日です。
- * 全エリアの基本情報を記載した鳥瞰図を作成しました。
- * ネットワーク活動資金獲得のため、まちづくり財団に助成金申請を行いました。
- * 4月～5月 各エリア、総会を開催予定です。
- * 研究所に新メンバーが加わりました！！
村山陽さん（慶應大学大学院）、竹内瑠美さん（国際医療福祉大学大学院）です。よろしくお願いいたします。



講師コーナー 絵本って楽しいねー子どもの楽しみ方いろいろ 植田 たい子（りぷりんと・中央区）

3月中旬。1週間の間に3年生と2年生の教室で読み聞かせをしました。それも同じ本で！読んだ本は『むかしむかし とらとねこは・・・』（中国のむかし話 福音館書店）という大型絵本です。最初に3年生、始まる前に子ども達に今年の干支は何ですか？と尋ねると「寅年！」と元気な声が返ってきました。最初の場面を読み始め、トラがネコよりもものろまだったと知ると「ええっ」という声がし、目が輝きだしました。音を立てずに獲物に近づく方法の訓練段階はまだ、静かです。早く走る方法から高い所から飛び降りる方法までくると子ども達は物語の先を想像し始めました。「絶対失敗するよ」「落ちるよ」「高い山痛そう！」と楽しみだし、トラがネコの味がどんなものと飛び掛った時には「ひどいよ！」「先生なのに」とブーイング。最後にネコが人の暮らしの中で生きていることを知ると納得しました。3年生は物語世界を主人公とともに積極的に行動し先を想像して楽しんでいました。一方、2日後に読んだ2年生。今年の干支はと尋ねるところは同じです。皆よく知っていました。ところが読み始めると食いつき方がまるで違うのです。全員目が絵本に集中していますが、言葉になりません。最後まで始めて聞く絵本を見つめていました。当初、読み方の問題かと考えましたが違いました。どうやら子どもの1年間の経験の違いが楽しみ方の違いにもなったようです。（2年、3年の担任の先生に絵本をお貸ししました。）

楽しみ方は心の成長によって違い、何度でも読んであげる意味がここにありそうです。

植田先生から絵本を2冊ご推薦いただきました

『新装版 はるですよ ふくろうおばさん』

作：長新太 絵：長新太

出版社：講談社 出版年月：2006・2

（1977年の新装版復刻）

対象年齢：幼児、小学校低・高学年

あらすじ：毛糸のマフラーを頭に巻きつけ、セーターで体を包み、すみかの木も毛糸で編みこんでしまいます。とうとう毛糸の袋で森中を覆ってしまいました。でも春はそこまできていました。この時期にピッタリなナンセンス絵本。1977年講談社出版文化賞絵本賞受賞。

『むかし むかし とらとねこは・・・中国のむかし話より』

作：大島英太郎 絵：大島英太郎

出版社：福音館書店 出版年月：2009.4.30

対象年齢：小学校低・高学年

あらすじ：トラはとてものろまだったので、狩が上手なネコに獲物のとり方を教えてもらうことにしました。音を立てずに獲物に近づいたり高いところから飛び降りたり……。ところが恩も忘れて、ネコを食べようと飛びかかったのです。結末は如何に？寅年に困って選びました。

りぷりんと・すぎなみトピックス

「すぎなみ子ども・子育てメッセ」に参加して（りぷりんと・すぎなみ 河村弘子）

3月14日（日）セッション杉並で「第5回すぎなみ子ども子育てメッセ」が「すべての子どもと大人でつくる新しい杉並—あそぼう しろう 輝け えがお」をモットーにして開催され、大勢の親子連れが参加し、盛況でした。参加団体は活動を紹介するポスターを展示し、チラシ等を配布しました。「りぷりんと・すぎなみ」も3回目の参加をいたしました。他の読み聞かせ関係の団体の方たちは、紙芝居、人形劇、パネルシアター、対話式読み聞かせ等をされました。私達は大型絵本の読み聞かせ、「三びきのこぶた」「しりとりのだいすきなおうさま」とエプロンシアター「ぞうのはなはなぜながい」を午前、午後の2回行いました。十分な全体練習はできなかったのですが、各自よく練習して無事終わることができ、子どもたちもよく反応し、とても喜んでくれたので、嬉しかったです。これからもこのような対外の大きなイベントに積極的に参加して他団体のいろいろな活動を見聞して視野を広げ、今後の活動に生かしていきたいと思いました。「りぷりんと・すぎなみ」も会員43名、読み聞かせ先も11か所、今新たな読み聞かせ先を開拓中です。毎月の例会では、多くの会員が日頃の体験を自由に話し合い、大変勉強になり、明るく楽しい会になっています。各地の諸先輩の素晴らしい活動に少しでも近づけるよう、大いに頑張っていきたいと思います。



りぷりんと・すぎなみ
「第5回すぎなみ子ども子育てメッセ」



りぷりんと・かわさき
「第3回 みんなで楽しむお話しワールド」

りぷりんと・かわさきトピックス

第3回「シニア読み聞かせボランティア、みんなで楽しむお話しワールド」 イベントを終了して（りぷりんと・かわさき 櫻木進）

「りぷりんと・かわさき」では、「シニア読み聞かせボランティア、みんなで楽しむお話しワールド」として、第1回（2008年）・第2回（2009年）と毎年開催してまいりました。今年も、第3回として2010年2月13日（土）午後・多摩市民館大会議室にて開催いたしました。構成・演出で毎回お世話になっている、コーディネーター熊谷裕紀子先生には、昨年11月から毎月1～2回、「読み方」と「表現」のご指導をいただきました。特に、舞台上では観客に「聞かせ」だけではなく、「演技」をして絵本の内容を想像していただく為の「表現」のご指導も受けました。そして、シニアのおじさん・おばさん達はポスター書きや舞台衣装の準備等でアツク言う間にイベント開催日になりました。会員はPR・舞台準備・会場作り・推薦絵本の展示・受付等役割分担をこなしながら、本番では一生懸命「読み・演じ」大変好評でした。

ただ当日は、カナダ・バンクーバー冬季オリンピックの開会式とも重なり観客の出足は今一歩というところでした。イベント内容は、一部・初めて出会った絵本として、①ももたろう、②かぐやひめ、③月の姫、を読み・演じました。二部、現代の絵本として、①イソップのおはなし、②三びきのこぶた、③ヤクバとライオン、でした。特に、「三びきのこぶた」の中の「メッソウモナイ」の言葉の意味について、会場の子供さんがお母さんに、大きな声で聞いている姿を見て大変良かったなあと思いました。今回のような「絵本」を通じた同好のシニアが「声の出し方」「問のとりかた」「読むテンポ」、そして「表現」等絵本を通じた世代間交流の目的達成ができた事に大満足でした。会員「皆が主役」のイベントが終わって、反省を兼ねた打ち上げの席で飲んだビール旨さが忘れられません。最後に、ややもすると緊張してこちこちのシニア会員を、終始激励されイベント成功に導いていただいた構成・演出の熊谷裕紀子先生に感謝申し上げます。

いぶりんと・中央区トピックス

卒業式に想う (いぶりんと・中央区 工藤寛)

先日、区立阪本小学校の第134回卒業式に出席させて頂きました。案内されて卒業式会場に入ると、日の丸が掲げられていて、校服を着た生徒達が出迎えてくれました。司会の案内により、卒業生の入場、式の進行と共に“君が代”“仰げば尊し”“蛍の光”等の合唱があり、卒業生の退場、整然とした見事な卒業式でした。粛々と進む式典の中で、私は自分の卒業式の事を思い出していました。最初の卒業式に参加したのは、小学生1年生の時(昭和20年3月)東京大空襲があり、一般国民にも戦争の被害が直接及ぶ頃になっていました。それでもまだ戦争を続けようとする命を大切にしない指導者により、学業半ばにして送り出された学徒や少年が沢山居ました。そんな残念な時代を経験して、現在国民の皆が国の安寧地秩序を願って、今日の平和があると思います。この卒業式では、“日の丸”“君が代”“仰げば尊し”“蛍の光”と国民意識、感謝、将来への志が表現され私に感動を与えてくれました。この学校の卒業生に未来あれと願いながら、退席させて頂きました。この至福の時を与えて下さったりぶりんとと、先輩方に感謝し、益々の発展を望むと共に、この様な機会が再び来た時の為に、これからも健康でいられる様に努力したいと思っています。



りぶりんと・中央区
落語家 金原亭馬生師匠を囲んで 定例会にて



りぶりんと・長浜
まゆの会 大野恵子先生を囲んで

いぶりんと・長浜トピックス

この1年をふりかえって (いぶりんと・長浜 まゆの会 川上 由明)

昨年4月に「連絡員」を引き受け新学期がスタートした。1昨年10月に5期生の方々5名に参加頂き総勢12名となり、多少意見の食い違いなどもあったが、学校から2学期からの動員数倍増の提案と共に、図書室を解放していただいて、毎回ほぼ全員が顔を合わせ、時間的余裕もできたおかげで雰囲気が一変した感がある。これを転機として、「交流会」「養蚕まつり」「得々広場」などの発表を「みんなでやろう」との意見が出て、ペープサートや大型紙芝居を全員で演じることとなり、そのための練習を通して友好的雰囲気が生まれてきた。これで自信をつけ、「長浜市言葉を大切に研修会」でグループ発表をする！こととなり、「読み手が一体と」なれるか？不安もあり、全員の賛同を得てサンパレスで「音読」教室の講師をしておられる大野恵子先生(前列中央)の指導を受けることにした。単刀直入に指摘いただき、弱さ・甘さを思い知ることになるが、「表現」の重要性を学ぶことができ、先生の指導に感謝すると共に、メンバー全員が心をひとつにして発表を終えたことに安堵している。最近では会合で料理のレシピを紹介する和やかさが生まれ、みんな一緒に活動する喜びを得て、本との縁・学びの縁・子供との縁・仲間との縁をかみしめ、雪や雨にもめげずに和やかに活動している。